

歯科補綴学教育基準 改訂 2021

公益社団法人 日本補綴歯科学会

2021

「歯科補綴学教育基準 改訂 2021」について

公益社団法人 日本補綴歯科学会
理事長 大川周治

前回の改訂から現在まで、14年の間に歯学教育を取り巻く環境は大きく変化しました。共用試験（CBT、OSCE）、および臨床能力試験（一斉技能試験、臨床実地試験）が導入、実施されるとともに、今年度（2020年度）からは、「Student Dentist」称号付与の制度もスタートしました。これら一連の教育改革により、診療参加型臨床実習の体制整備は整いつつあります。ただ、残念ながら、歴史的出来事となるCOVID-19の世界全体への拡大、蔓延に伴い、臨床実習は厳しい環境におかれており、今後の行方が見通せない状況となっています。

一方、一般社団法人日本歯科専門医機構が2018年に設立され、補綴歯科専門医の広告開示へ向けた大きい流れが押し寄せており、学生から補綴歯科専門医まで、歯科補綴学に関する教育基準の見直し、整備が求められています。

そこでこの度、教育問題検討委員会が中心となり「歯科補綴学教育基準改訂 2006」の改訂を行い、「歯科補綴学教育基準改訂 2021」として公開する運びとなりました。今回の改訂では、「補綴歯科専門医の教育目標」との整合性をとりつつ、新しい項目の追加、用語の統一、修正を行いました。特に、「補綴歯科の専門性」であり、補綴歯科治療の質を保証する各種検査が整備されました。

改訂された本教育基準が、歯学生のみならず、歯科補綴学の教育に従事される教員、ひいては歯科補綴専門医を目指される歯科医師および関係各位に、大いに活用されますことを期待いたします。

2021年2月吉日

公益社団法人 日本補綴歯科学会
教育問題検討委員会
委員長 飯沼利光
副委員長 菊池雅彦
委員 権田知也
鷹岡竜一
田口則宏
長谷川陽子
幹事 池田貴之

目次

I 歯科補綴学・治療総論

- (I) 歯科補綴学の意義・目的 1
 - 1. 歯科補綴学の定義
 - 2. 補綴歯科治療と健康科学
 - 3. 補綴歯科治療の利益と不利益
 - 4. 補綴歯科治療に関連する疫学

- (II) 補綴歯科治療に関連する顎口腔系の形態と機能 1
 - 1. 顎顔面形態
 - 2. 顎顔面形態にかかわる心理的要素
 - 3. 下顎運動
 - 4. 咬合
 - 5. 咀嚼・嚥下・構音
 - 6. 口腔内感覚
 - 7. 老化と加齢変化
 - 8. 高齢者の特徴

- (III) 補綴歯科治療と生体反応 8
 - 1. 咀嚼筋と顎骨・顎関節
 - 2. 歯と歯周組織
 - 3. 顎堤・粘膜
 - 4. 口腔内微生物との関連
 - 5. 歯科用材料と生体反応
 - 6. 補綴歯科治療と QOL

- (IV) 顎口腔系と精神心理的・社会的側面 9
 - 1. 顎口腔系と心理的側面
 - 2. 顎口腔系と社会的側面

- (V) 歯科補綴用器材 9
 - 1. 検査機器・材料

2. 補綴歯科治療用機器・材料

II 歯科補綴学・治療各論

(I) 診察・検査・診断 10

1. 医療面接と診察
2. 検査
3. 評価と診断
3. 治療計画を左右する因子

(II) 補綴歯科治療に用いる機器・材料 12

1. 印象材
2. 咬合採得材
3. 模型材
4. 修復用材
5. デジタル機器

(III) 歯質・歯・顎顔面の欠損の補綴歯科治療

(III) - 1 歯質・少数歯欠損の補綴歯科治療 13

1. 病因・病態
2. 主要症候
3. 補綴装置(クラウン・ブリッジ)の要件
4. クラウンの種類
5. ブリッジの種類
6. ブリッジの構成
7. ブリッジの設計
8. 臨床操作・技工操作

(III) - 2 歯列部分欠損の補綴歯科治療 20

1. 病因・病態
2. 主要症候
3. 補綴装置(部分床義歯)の分類
4. 部分床義歯の構成要素
5. 部分床義歯の設計
6. 臨床操作・技工操作

(Ⅲ) - 3 無歯顎の補綴歯科治療 31

1. 病因・病態
2. 主要症候
3. 補綴装置(全部床義歯)の分類
4. 全部床義歯の構成要素
5. 全部床義歯の設計
6. 臨床操作・技工操作

(Ⅲ) - 4 顎顔面欠損の補綴歯科治療 42

1. 病因・病態
2. 主要症候
3. 補綴装置の要件
4. 補綴装置の設計
5. 治療
6. 装置の種類

(Ⅲ) - 5 口腔インプラントによる補綴歯科治療 44

1. 主要症候
2. 補綴装置
3. 治療
4. 口腔インプラントの応用

(Ⅳ) 顎口腔・頭頸部の疾患・障害の治療

(Ⅳ) - 1 顎機能障害 45

1. 病因
2. 病態
3. 主要症候
4. 検査
5. 治療

(Ⅳ) - 2 睡眠時無呼吸症(候群) 46

1. 病因
2. 病態
3. 検査
4. 治療

(IV) - 3	摂食嚥下障害	48
1.	病因	
2.	病態	
3.	検査	
4.	治療	
(IV) - 4	口腔機能低下症	50
1.	病因	
2.	病態	
3.	主要症候	
4.	検査	
5.	管理	
(IV) - 5	その他	52
1.	咬合異常・不正咬合	
2.	歯の変色・着色	
(V)	高齢者に関連した障害・疾患の治療	55
1.	歯科治療で注意すべき疾患の病因・病態	
2.	老化による口腔・顎顔面領域の変化	
3.	高齢者に関連した臨床評価	
4.	治療	
(VI)	補綴歯科治療後の管理	58
1.	歯周組織	
2.	歯	
3.	顎堤	
4.	顎関節・筋	
5.	補綴装置	
6.	機能	
7.	患者指導	
8.	リコール	
9.	他科との連携	

I 歯科補綴学・治療総論

(I) 歯科補綴学の意義・目的

大項目	中項目	小項目
1. 歯科補綴学の定義	A. 定義	a 補綴歯科治療の種類と変遷
	B. 種類	
2. 補綴歯科治療と健康科学	A. 全身とのかかわり	
	B. 顎口腔系とのかかわり	
	C. 精神・心理的なかかわり	
3. 補綴歯科治療の利益と不利益	A. 形態・機能・審美性の回復・改善・維持	
	B. 補綴歯科治療による不利益	
4. 補綴歯科治療に関連する疫学	A. 補綴歯科治療とEBM	

(II) 補綴歯科治療に関連する顎口腔系の形態と機能

大項目	中項目	小項目
I. 顎顔面形態	A. 顔貌	a 正貌 b 側貌 c 人中 d 鼻唇角 e 鼻唇溝 f オトガイ唇溝 g 対称性
	B. 歯と歯列	a 歯冠 b 歯頸 c 歯根 d 咬合面 e 隣接面 f 近心面 g 遠心面 h 舌側面 i 唇側面 j 頬側面 k 歯軸・歯冠軸

大項目	中項目	小項目
	C. 顎および顎関節	
	C-1 上顎	a 上顎結節 b 上顎洞 c 口蓋 d 切歯孔 e 大口蓋孔 f 小口蓋孔 g 口蓋小窩 h 口蓋縫線 i 口蓋隆起 j 口蓋ひだ [口蓋皺襞] k ハミュラーノッチ l 顎堤
	C-2 下顎	a 関節突起 b 筋突起 c 下顎頭 [顆頭] d 下顎管 e 下顎孔 f オトガイ孔 g 頬棚 h 下顎隆起 i オトガイ棘 j 外斜線 k 内斜線 l 顎舌骨筋線 m 顎堤 n 顎堤粘膜
	C-3 顎関節	a 下顎窩 [関節窩] b 下顎頭 [顆頭] c 関節包 d 関節腔 e 関節隆起 f 関節円板 g 外側翼突筋 h 靱帯

大項目	中項目	小項目
	D. 筋	i 後部結合組織 j 滑液
	D-1 開口筋	a 顎舌骨筋 b オトガイ舌骨筋 c 顎二腹筋
	D-2 閉口筋	d 外側翼突筋 a 咬筋 b 内側翼突筋 c 側頭筋
	D-3 前方運動に関与する筋	
	D-4 後方運動に関与する筋	
	D-5 側方運動に関与する筋	
	D-6 口唇を形成し，動かす筋	
	D-7 頬を形成し，動かす筋	
	D-8 口腔底を形成し，動かす筋	
	D-9 舌を形成し，動かす筋	
	D-10 軟口蓋を形成し，動かす筋	
	E. 軟組織	a アーライン [Ah-line] b レトロモラーパッド c 硬口蓋 d 軟口蓋 e 口唇 f 口蓋ひだ [口蓋皺壁] g 口腔前庭 h 切歯乳頭 i 頬小帯

大項目	中項目	小項目
2. 顎顔面形態にかかわる心理的要素	A. 審美的要件	j 上唇小帯 k 下唇小帯 l 舌小帯 m 唾液腺 n 歯肉 o 舌 p 舌下ひだ q フラビーガム r 翼突下顎ヒダ a 歯列形態 b 歯の色調 c 歯冠（唇面）形態 d 歯冠の大きさ e SPA 要素 f 被蓋 g 笑線
3. 下顎運動	A. 下顎位 A-1 下顎安静位 A-2 中心咬合位 A-3 中心位 A-4 終末蝶番位 A-5 嚙下位 A-6 発音位 A-7 偏心位 B. 下顎運動	a 安静空隙 a 咬頭嵌合位 b 筋肉位 c 顎頭安定位 d 習慣性咬合位 a 偏心咬合位 b 側方咬合位 c 前方咬合位 d 後方咬合位 a 開閉運動 b 前方滑走運動 c 後方滑走運動 d 側方滑走運動 e 習慣性開閉口運動

大項目	中項目	小項目
	C. 下顎限界運動	a Posselt の図形 b 前方限界運動 c 後方限界運動 d 側方限界運動 e 終末蝶番運動 f 上方限界運動 g 最大開口位 h 開口量
	D. 下顎運動要素	
	D-1 切歯路	a 切歯点 b 矢状切歯路傾斜角 c 側方切歯路角 d ゴシックアーチ
	D-2 顆路	a 顆頭点 b 矢状顆路傾斜角 c 側方顆路角 [Bennett 角] d サイドシフト e Fischer 角
	E. 運動の基準点と基準面	
	E-1 基準平面	a 咬合平面 b 水平基準 (平) 面 c 仮想咬合平面 d フランクフルト平面 e Camper 平面
	E-2 基準線	a 正中線 b 口角線 c 上唇線 d 下唇線 e 鼻翼幅線 f 瞳孔線 g 齒槽頂線 h 齒槽頂間線
	E-3 基準点	a 耳珠 b 鼻翼 c オトガイ点

大項目	中項目	小項目
4. 咬合	<p data-bbox="660 562 799 591">E-4 投影面</p> <p data-bbox="620 705 804 734">A. 咬合の概念</p> <p data-bbox="660 754 826 784">A-1 咬合様式</p> <p data-bbox="660 994 906 1023">A-2 正常な咬合関係</p> <p data-bbox="660 1137 906 1167">A-3 異常な咬合関係</p> <p data-bbox="660 1424 906 1453">A-4 義歯の咬合様式</p> <p data-bbox="620 1520 831 1550">B. 解剖学的要素</p> <p data-bbox="660 1570 963 1644">B-1 歯列および顔面、頭蓋</p>	<p data-bbox="999 324 1136 353">d 眼窩下縁</p> <p data-bbox="999 374 1106 403">e 外眼角</p> <p data-bbox="999 423 1106 452">f 鼻下点</p> <p data-bbox="999 472 1136 501">g 切歯乳頭</p> <p data-bbox="999 521 1241 551">h ハミュラーノッチ</p> <p data-bbox="999 571 1106 600">a 前頭面</p> <p data-bbox="999 620 1106 649">b 矢状面</p> <p data-bbox="999 669 1106 698">c 水平面</p> <p data-bbox="999 754 1347 828">a フルバランストオクルージョン</p> <p data-bbox="999 848 1321 878">b グループファンクション</p> <p data-bbox="999 898 1347 972">c ミューチュアリープロテクティッドオクルージョン</p> <p data-bbox="999 994 1214 1023">a 正常な咬合接触</p> <p data-bbox="999 1043 1136 1072">b 水平被蓋</p> <p data-bbox="999 1093 1136 1122">c 垂直被蓋</p> <p data-bbox="999 1142 1214 1171">a 異常な咬合接触</p> <p data-bbox="999 1191 1136 1220">b 交叉咬合</p> <p data-bbox="999 1240 1136 1270">c 反対咬合</p> <p data-bbox="999 1290 1136 1319">d 切端咬合</p> <p data-bbox="999 1339 1136 1368">e 過蓋咬合</p> <p data-bbox="999 1388 1078 1417">f 開咬</p> <p data-bbox="999 1438 1214 1467">a 両側性平衡咬合</p> <p data-bbox="999 1487 1214 1516">b 片側性平衡咬合</p> <p data-bbox="999 1570 1294 1599">a 歯列, 歯列弓, 顎堤弓</p> <p data-bbox="999 1619 1174 1648">b 基準点 (面)</p> <p data-bbox="999 1668 1078 1697">c 被蓋</p> <p data-bbox="999 1718 1078 1747">d 歯軸</p> <p data-bbox="999 1767 1078 1796">e 彎曲</p> <p data-bbox="999 1816 1174 1845">f Spee の彎曲</p> <p data-bbox="999 1865 1198 1895">g Wilson の彎曲</p> <p data-bbox="999 1915 1222 1944">h Monson カーブ</p> <p data-bbox="999 1964 1182 1993">i Bonwill 三角</p>

大項目	中項目	小項目
5. 咀嚼・嚥下・構音	C. 生理学的要素 C-1 神経筋機構 C-2 顎（下顎）反射 C-3 歯根膜感覚 C-4 粘膜感覚 C-5 顎関節感覚 C-6 筋感覚 C-7 逃避運動 A. 咀嚼 A-1 咀嚼機能 A-2 咀嚼運動 B. 嚥下 C. 構音	a 開口反射 b 閉口反射 b-1 下顎張反射 b-2 歯根膜-咬筋反射 c 側方への反射 a 口唇，頬，舌および口蓋の機能 b 咀嚼筋の機能 c 咀嚼能力・咀嚼能率 d 咀嚼力・咬合力 e 咀嚼側・非咀嚼側 a 咀嚼運動の制御 b 咀嚼運動路 a 嚥下反射 b 嚥下の機構 a 歯音，歯茎音，両唇音，唇歯音，口蓋音 b 構音のしくみ c 補綴装置と構音障害 d 補綴歯科術式への発語機能の応用 e S字状隆起
6. 口腔内感覚	A. 感覚機能	a 痛覚 b 触覚 c 圧覚 d 温覚 e 冷覚

大項目	中項目	小項目
7. 老化と加齢変化	A. 形態的变化	f 深部感覚 f-1 位置感覚 f-2 運動感覚 g 味覚 a 上顎 b 下顎 c 対向関係 d 顎関節 e 粘膜 f 骨 g 顔貌
8. 高齢者の特徴	B. 機能的変化	a 筋活動 b 咀嚼 c 発音 d 感覚 e 唾液
	C. 全身状態に伴う変化	
	A. 身体的特徴	
	B. 精神的特徴	
	C. 社会的特徴	
	D. 全身的合併症	
	E. 治療時の配慮	

(Ⅲ) 補綴歯科治療と生体反応

大項目	中項目	小項目
1. 咀嚼筋と顎骨・顎関節	A. 補綴装置による下顎骨の保持 B. 力的負荷に対する顎関節の生体反応 C. 下顎の機能と顎関節・咀嚼筋	
2. 歯と歯周組織	A. 補綴装置と歯 B. 補綴装置と歯周組織 C. 補綴装置からの外力に対する生体反応	

大項目	中項目	小項目
3. 顎堤・粘膜	A. 顎骨のリモデリング	
	B. 補綴装置からの外力に対する生体反応	
4. 口腔内微生物との関連	A. 付着と抗菌性	
5. 歯科用材料と生体反応	A. 生体適合性の区分	
	B. アレルギー反応	
	C. インプラントと生体反応	
6. 補綴歯科治療と QOL	A. 補綴歯科治療と味覚	
	B. 補綴歯科治療と ADL	
	C. 補綴歯科治療と精神活動	
	D. 補綴歯科治療と咀嚼嚥下	

(IV) 顎口腔系と精神心理的・社会的側面

大項目	中項目	小項目
1. 顎口腔系と心理的側面	A. 歯と心理	
	B. 口腔機能と心理	
	C. 顔面と心理	
	D. 顎機能と心理	
2. 顎口腔系と社会的側面		

(V) 歯科補綴用器材

大項目	中項目	小項目
1. 検査機器・材料	A. 顎機能検査機器	
	A-1 種類	
	B. 検査用材料	
2. 補綴歯科治療用機器・材料	A. 歯科補綴用機器	
	A-1 切削・研削機器	
	A-2 切削・研削工具	
	A-3 印象用器具	
	A-4 咬合採得用器具	
	A-5 技工操作用機器	
	B. 咬合器の分類	
	B-1 調節機構による分類	a 蝶番 [平線] 咬合器
		b 平均値咬合器

大項目	中項目	小項目
	B-2 顎路指導要素による分類 C. 模型の咬合器への装着 D. 咬合器の調節 E. 歯科補綴用材料 E-1 補綴装置用材料 E-2 口腔インプラント用材料 E-3 生体親和性材料 [バイオマテリアル]の応用	c 半調節性咬合器 d 全調節性咬合器 e 特殊な咬合器 a アルコン型咬合器 b コンダイラー型咬合器 c スロット型 d ボックス型 e 非顎路型 a フェイスボウ b フェイスボウトランスファー c 咬合平面板 a 顎路 b 切歯路

II 歯科補綴学・治療各論

(I) 診察・検査・診断

大項目	中項目	小項目
1. 医療面接と診察	A. 医療面接 B. 全身的診察 C. 局所的診察 C-1 口腔外の診察 C-2 口腔内の診察 D. プロブレムリストの作成 E. 初期計画の立案 E-1 診断計画 E-2 治療計画 E-3 教育計画	

大項目	中項目	小項目
2. 検査	F. インフォームドコンセント A. 口腔検査 A-1 歯髄検査 A-2 歯周組織検査 A-3 歯列検査 A-4 唾液検査 B. 咬合検査 B-1 咬合接触検査 B-2 誘導様式の検査 C. 機能検査 C-1 咀嚼能力検査 C-2 咬合力(圧)検査 C-3 下顎運動検査 C-4 筋機能検査 C-5 舌圧検査 C-6 構音検査 C-7 嚥下機能検査 C-8 舌口唇運動機能検査 D. 模型検査 D-1 研究用模型検査 D-2 咬合器上の研究用模型検査 E. 画像検査 E-1 デンタルエックス線写真検査 E-2 パノラマエックス線写真検査 E-3 顎関節エックス線写真検査 E-4 CT 検査 E-5 MRI 検査 F. 補綴装置の検査	a 唾液量 b 唾液の性状
3. 評価と診断	A. 顎機能・咬合の評価・臨	

大項目	中項目	小項目
4. 治療計画を左右する因子	床診断 B. 支台歯の評価・診断 C. 治療計画の立案 D. 補綴歯科治療の難易度 (症型分類)	a 口腔の状態 b 身体社会的状態 c 治療前の口腔関連 QOL d 精神心理学的状態
	A. 口腔内環境とリスクファクター B. 支台歯の状態 C. 顎堤の状態 D. 審美性 E. 口腔衛生 [清掃] 状態 F. 口腔の機能 F-1 下顎運動 F-2 咬合 F-3 咀嚼・嚥下・構音 F-4 口腔内感覚 G. 他科処置との関連 H. 年齢 I. 性格 J. 職業 K. 習慣 L. 患者の受療条件 M. 全身疾患	

(II) 補綴歯科治療に用いる機器・材料

大項目	中項目	小項目
1. 印象材	A. ハイドロコロイド系 B. ゴム質 C. コンパウンド類 D. 酸化亜鉛ユージノール	a 寒天印象材 b アルジネート印象材 a シリコーンゴム印象材

大項目	中項目	小項目
2. 咬合採得材	E. ワックス系 F. レジン系	
3. 模型材	A. ワックス B. シリコーンゴム C. ポリエーテルゴム D. 石膏	
4. 修復用材	A. 石膏系 B. レジン系	a α -石膏系 b β -石膏系
	A. 歯科用金属 B. 歯冠修復用レジン C. 義歯床用レジン D. セラミック材料 E. ハイブリッドレジン F. CAD/CAM用ブロック	a 金合金 b 銀合金・金銀パラジウム合金 c 陶材焼付用合金 d 純チタン、チタン合金 e コバルトクロム合金
5. デジタル機器	A. スキャナー B. CAD/CAM 機器 C. 3D プリンター	a 陶材 b ジルコニア、アルミナ、ガラスセラミックス a 口腔外 b 口腔内

(Ⅲ) 歯質・歯・顎顔面の欠損の補綴歯科治療

(Ⅲ)－1 歯質・少数歯欠損の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目
1. 病因・病態	A. 病因 A-1 歯質欠損の原因 A-2 歯の欠損の原因 B. 歯質欠損による障害の病	

大項目	中項目	小項目
<p>2. 主要症候</p> <p>3. 補綴装置（クラウン・ブリッジ）の要件</p> <p>4. クラウンの種類</p>	<p>態</p> <p>B-1 歯質欠損の大きさ</p> <p>B-2 歯質欠損の範囲</p> <p>B-3 咬合障害</p> <p>C. 少数歯欠損による障害の病態</p> <p>C-1 欠損の様式</p> <p>C-2 歯列の変化</p> <p>C-3 咬合障害</p> <p>C-4 咀嚼障害</p> <p>C-5 顎堤の変化</p> <p>A. 症状</p> <p>A-1 歯質欠損による障害の症状</p> <p>A-2 少数歯欠損による障害の症状</p> <p>B. 徴候</p> <p>B-1 歯質欠損による障害の徴候</p> <p>B-2 少数歯欠損による障害の徴候</p> <p>A. 生物学的要件</p> <p>B. 機能的要件</p> <p>C. 力学的要件</p> <p>D. 審美的要件</p> <p>E. 材料学的要件</p> <p>A. 全部被覆冠</p> <p>A-1 全部金属冠</p> <p>A-2 陶材焼付冠</p> <p>A-3 レジン前装冠</p> <p>A-4 ポーセレンジャケットクラウン</p> <p>A-5 レジンジャケットクラウン</p> <p>A-6 オールセラミックク</p>	

大項目	中項目	小項目
	ラウン	
	A-7 その他のクラウン	a CAD/CAM クラウン b キャスタブルセラミッククラウン
	B. 部分被覆冠	
	B-1 3/4 冠	
	B-2 4/5 冠	
	B-3 ピンレッジ	
	B-4 プロキシマルハーフクラウン	
	B-5 ラミネートベニア	
	B-6 その他の部分被覆冠	
	C. ポストクラウン	
5. ブリッジの種類	A. 固定性ブリッジ	a 接着ブリッジ
	B. 半固定性ブリッジ	
	C. 可撤性ブリッジ	
6. ブリッジの構成	A. 支台装置	
	A-1 概要	
	A-2 種類	
	B. ポンティック	
	B-1 概要	
	B-2 生物学的要件	a 支台歯への影響 b 歯槽堤粘膜への影響 c 基底面の形態と材料 d 自浄性・清掃性
	B-3 機能的要件	a 咀嚼 b 構音
	B-4 力学的要件	a 材料と強度
	B-5 審美的要件	
	B-6 材料学的要件	
	B-7 構造	a レジン前装ポンティック b 金属ポンティック c 陶歯応用ポンティック d 陶材焼付ポンティック
	B-8 基底面形態の種類と	a 離底型ポンティック

大項目	中項目	小項目
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> b 船底型ポンティック c 偏側型ポンティック d リッジラップ型ポンティック e 鞍状型ポンティック f オベイト型ポンティック g 有床型ポンティック h 有根型ポンティック
7. ブリッジの設計	<ul style="list-style-type: none"> C. 連結部 A. 支台歯の負担能力 B. 欠損歯数と支台歯数 C. 支台装置の選択 D. 咬合と咬合圧負担 E. ポンティック基底面形態 F. ブリッジの連結法 G. 延長ブリッジ H. 材料の選択 	<ul style="list-style-type: none"> a ろう付け法 b ワンピースキャスト法
8. 臨床操作・技工操作	<ul style="list-style-type: none"> A. インフォームドコンセント B. 患者教育 C. 補綴前処置 <ul style="list-style-type: none"> C-1 予防的処置 C-2 外科的処置 C-3 保存的処置 C-4 矯正的処置 C-5 補綴的処置 D. 支台歯形成の概説 	<ul style="list-style-type: none"> a 口腔衛生指導 b 歯石除去 a 歯槽整形 a 歯内療法 b 修復処置 c 歯周療法 a 咬合調整 b プロビジョナルレストレーション a 切削と歯質との関係 b 切削と歯髄との関係 c 切削と歯周組織との関係

大項目	中項目	小項目
		d 切削時の注意事項 e 切削方法
	E. 支台歯形成の前準備	
	E-1 除痛	a 麻酔
	E-2 歯肉圧排	a 機械的圧排法 b 薬物的圧排法 c 機械的薬物的圧排法 d 外科的圧排法
	E-3 外科的処置	a 歯肉弁切除 b 被覆歯肉切除
	F. 支台歯形態の要件	a 保持力および強度 b 歯周組織との関連事項 c フィニッシュラインの設定 d 歯頸部辺縁形態 e 咬合面形態 f 軸面形態 g 切端形態 h 根面形態 i 補助的保持形態
	G. 切削・研削器具の種類と取り扱い	a 切削・研削器具 b 切削・研削工具
	H. ク라운の支台歯形成	a 全部被覆冠 b 部分被覆冠 c ポストクラウン d 支台築造
	I. ブリッジの支台歯形成	a 固定性ブリッジ b 半固定性ブリッジ c 可撤性ブリッジ
	J. 支台築造法	
	J-1 臨床的意義	
	J-2 種類	a 成形充填材による築造（セメント築造、レジン築造） b 既製ピン、既製の金属ポスト、ファイバーポストと成形充填材を併用する築造

大項目	中項目	小項目
	K. 暫間処置 (テンポラリー クラウン・ブリッジ)	c 金属による築造
	K-1 臨床的意義	
	K-2 種類	
	K-3 製作法	
	K-4 装着	a 試適・装着時の注意 b 仮着材の種類と取り扱い方
	L. 印象採得の前準備	
	L-1 間接法の概説	
	L-2 歯肉圧排法	
	M. 印象採得	
	M-1 印象法	a 単一印象法 b 二重同時印象法 c 連合印象法 d 個歯トレー印象法 e 光学印象法
	N. 作業用模型	
	N-1 構成と要件	a 石膏系模型材 b レジン系模型材 c 歯型の修正 [トリミング] d ダウエルピン e ダイロックトレー
	N-2 種類	a 歯型可撤式模型 b 副歯型式模型 c 歯型固着式模型
	O. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	O-1 咬合関係の決定 [咬合採得]	
	O-2 下顎位・下顎運動の記録 [チェックバイト]	
	P. 製作および装着	
	P-1 ワックスの種類と取	a 種類

大項目	中項目	小項目
	り扱い	b 分離剤
	P-2 ワックスアップ法	a 圧接法
		b ディッピング法
		c 盛り上げ法
		d FGP テクニック
	P-3 埋没の準備	a スプルーイング
		b 湯溜り
	P-4 埋没法	a 単一埋没法
		b 二重埋没法
		c 真空埋没法
		d リングレス埋没法
	P-5 鋳造法	a 鋳造法
		b 金属溶解法
		c 鋳造体の清掃
	P-6 鋳造収縮の補償	a 埋没材の膨縮
		b 金属の鋳造収縮
	P-7 鋳造欠陥	a 鋳巣
		b バックプレッシャー
		c 湯境い
		d 肌あれ
		e 穴
		f バリ
		g ヒートスポット
		h なめられ
	P-8 ろう（鑑）付け	a ろう（鑑）の所要性質
		b フラックス
		c アンチフラックス
		d 鑑着操作
		e レーザー溶接
	P-9 熱処理	a 硬化熱処理
		b 軟化熱処理
	P-10 研磨	a 意義と目的
		b 用具と材料
		c 手順
	Q. 鋳造法以外の製作	

大項目	中項目	小項目
	Q-1 光重合	a 築盛 b 光重合, 研磨
	Q-2 焼成法	a 築盛 b ポーセレン焼成, 研磨
	Q-3 CAD/CAM 法	a CAD の形状測定 b CAM の機械加工, 研磨
	R. 口腔内試適および装着	
	R-1 試適	a 隣接面の接触関係 b 適合状態 c 頬舌面形態 d 咬合関係 e 審美性
	R-2 仮着	a 仮着の目的と注意点 b 仮着材の性質
	R-3 合着	a 合着材の性質 b 合着材の種類 c 合着材の取り扱いおよび器具

(Ⅲ) - 2 歯列部分欠損の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目
1. 病因・病態	A. 歯の喪失の原因 A-1 齲蝕 A-2 歯周病 A-3 外傷 A-4 咬合性外傷 B. 歯列・歯槽堤の変化 B-1 歯列の連続性の喪失 B-2 咬合接触の喪失 B-3 咬合支持様式の変化 B-4 歯槽骨の喪失 B-5 顎堤形態の変化 B-6 顔貌の変化 C. 感覚の変化 C-1 歯髄感覚の喪失	

大項目	中項目	小項目
<p>2. 主要症候</p> <p>3. 補綴装置（部分床義歯）の分類</p> <p>4. 部分床義歯の構成要素</p>	C-2 歯根膜感覚の喪失	
	D. 欠損の分類	
	D-1 部位別分類	<ul style="list-style-type: none"> a 前歯欠損 b 臼歯欠損 c 前歯臼歯欠損
	D-2 位置的分類	<ul style="list-style-type: none"> a 中間欠損 b 遊離端欠損 c 複合欠損 d Kennedy の分類
	D-3 咬合支持域による分類	a Eichner の分類
	D-4 咬合支持と欠損部位による分類	a 宮地の分類
	A. 自覚症候	
	B. 他覚症候	
	A. 咬合圧支持による分類	<ul style="list-style-type: none"> a 歯根膜支持 [負担] 義歯 b 粘膜支持 [負担] 義歯 c 歯根膜粘膜支持 [負担] 義歯
	B. 目的別分類	<ul style="list-style-type: none"> a 最終義歯 b 暫間義歯 c 即時義歯 d 治療用義歯 e 移行義歯
	C. その他の分類	<ul style="list-style-type: none"> a オーバーデンチャー b 顎義歯・顔面補綴 c インプラント義歯 d ノンメタルクラスプデンチャー
	A. 支台装置	<ul style="list-style-type: none"> A-1 機能的要件 <ul style="list-style-type: none"> a 機能 b 所要条件 c 支台歯間線 [鉤間線] d 咬合圧支持の原則

大項目	中項目	小項目
	A-2 支持	e クラスプの利点と欠点 a 歯根膜支持 b 粘膜支持 c 歯根膜粘膜支持
	A-3 把持	a 片側性平衡 b 両側性平衡 c 反対側支台装置による安定 d 舌と頬による安定
	A-4 維持	a 支台装置による維持 b 義歯床による維持
	A-5 支台装置の種類	a クラスプ b アタッチメント c フック・スパー
	A-6 クラスプの分類	a 形態 a-1 環状クラスプ a-2 バークラスプ a-3 緩圧クラスプ b 製造法 b-1 鋳造鉤 b-2 線鉤
	A-7 クラスプの構成	a 鉤体 b 鉤腕 c 鉤肩 d 鉤尖 e 鉤脚 f 維持腕 g 拮抗腕 h 隣接面板 i レスト
	A-8 クラスプの種類	a Akersクラスプ [レスト付二腕鉤] b Roachクラスプ c リングクラスプ d RPI クラスプ

大項目	中項目	小項目
		<ul style="list-style-type: none"> e 双子鉤 f 連続鉤 g ヘアピンクラスプ h バックアクションクラスプ i リバースバックアクションクラスプ j ハーフアンドハーフクラスプ k 延長腕鉤 l コンビネーションクラスプ
	A-9 アタッチメント	<ul style="list-style-type: none"> a 特徴と構造 b 固定部 c 可撤部 d キーアンドキーウェイ e 力の方向付け f 維持機構 g 審美性 h 感覚障害の軽減
	B. 連結子 [装置]	
	B-1 大連結子 [装置]	<ul style="list-style-type: none"> a 意義と役割 b 所要条件
	B-2 大連結子 [装置] の種類	<ul style="list-style-type: none"> a パラタルバー b リンガルバー c 外側バー d パラタルストラップ e パラタルプレート f リンガルプレート g Kennedyバー
	B-3 大連結子 [装置] の設計の要件	<ul style="list-style-type: none"> a 発音・感覚障害の条件 b 強度の条件 c 剛性
	B-4 小連結子 [装置]	
	C. 人工歯	

大項目	中項目	小項目
5. 部分床義歯の設計	C-1 部位による分類	a 前歯部人工歯
		b 臼歯部人工歯
	C-2 形態による分類	a 前歯部
		a-1 方形
		a-2 卵円形
		a-3 尖型
		a-4 中間型
		b 臼歯部
		b-1 解剖学的人工歯
		b-2 機能的人工歯
	b-3 非解剖学的人工歯	
	C-3 材質による分類	a レジン歯
		b 硬質レジン歯
		c 陶歯
		d 金属歯
	D. 義歯床	a 所要条件
		b 粘膜面
		c 研磨面 [筋圧面]
		d 床縁
		e 頬, 口唇, 舌との関係
	E. 金属床義歯	a 意義と役割
		b 種類
		c 設計の所要条件
		d ワンピースキャスト法
		e フレームワーク
		f 維持格子
		g フィニッシュライン
		h ビーディング
		i ティッシュストップ
	A. 設計の基本原則	a 義歯の安定と残存組織の保護
		b 義歯の安定と力の均等配分
		c 咬合接触様式
		d 感覚・発音などの条件

大項目	中項目	小項目
	B. 設計手順 C. 義歯の安定に係る三つの作用 D. 設計の方針 D-1 サベイング D-2 サベイヤの構造と用具 D-3 サベイングに関する事項	e 審美的条件 f 衛生的条件 g 心理的条件 h 直接支台装置 i 間接支台装置 a レストの決定 b 義歯床の設計 c 連結子（装置）の設計 d 支台歯の選択 e 支台装置の設計 a 支持 b 把持 c 維持 a 着脱方向 b 最大豊隆線の記入 c アンダーカット量の測定 d 床外形記入 e バー設定位置の検討 f ブロックアウト g ガイドプレーンの設定 a 本体 b 模型台 c アナライジングロッド d アンダーカットゲージ e カーボンマーカー f 補強鞆 g ワックストリマー h テーパーツール a 着脱方向 b サベイライン c 鉤指導線 d 歯肉，顎堤の最大豊隆線 e ファーズーン f ニアゾーン

大項目	中項目	小項目
6. 臨床操作・技工操作	A. インフォームドコンセント B. 補綴前処置 C. 印象採得の準備 C-1 トレー C-2 トレーの種類 C-3 トレーの適合, 調整と 製作法 C-4 嘔吐反射に対する処置 D. 印象法の種類 D-1 印象材の組合せ D-2 目的別分類 D-3 粘膜への圧力別および機能別	g 歯冠円錐 [咬合円錐] h 歯肉円錐 [歯根円錐] i 等高点 [トライポッド] a レストシート b ガイドプレーン c クラウンとブリッジ d 歯冠形態修正 e 連結・固定 f 咬合平面の修正 g ティッシュコンディショニング h 褥瘡性潰瘍に対する処置 i 旧義歯の修正 j 治療用義歯 a トレーの使用目的と所要条件 a 材料 b 既製トレー c 個人トレー d 印象材の保持方法 a 既製トレーの適合, 調整 b 個人トレーの製作 a 体位・頭位 b 薬物 a 単一印象 b 連合印象 a 概形印象 b 精密印象 a 加圧印象 b 無圧印象 c 解剖学的印象 d 機能印象

大項目	中項目	小項目
	D-4 印象材別の分類	e 咬合印象 f 咬合圧印象 g 咬座印象 h ダイナミック印象 i オルタードキャスト法 a ハイドロコロイド系 b ゴム質 c コンパウンド類 d ワックス系 e レジン系
	E. 印象採得	
	E-1 目的（方針）	a 残存歯の正確な印象 b 粘膜負担部の印象 c 筋圧面の機能的調和 d 残存歯と欠損部の適切な位置づけ
	E-2 基底面と床縁の表現方法	a 負担圧の均等化 b 筋圧形成 [筋形成, 辺縁形成]
	E-3 前準備	a 前投薬（嘔吐反射） b トレーの選択, 適合, 修正
	E-4 概形印象	
	E-5 研究用模型製作	
	E-6 研究用模型による診断	a 床外形線 b リリーフ [緩衝] 部位の決定 c 後堤法 [ポストダム]
	E-7 個人トレー製作	a リリーフ [緩衝] b ブロックアウト c スペーサー d ストッパー
	E-8 精密印象	a 辺縁 [筋圧] 形成
	F. 模型	
	F-1 所要条件	a 正確さ [寸法精度]

大項目	中項目	小項目
	F-2 種類	<ul style="list-style-type: none"> b 強度 a 研究用模型 [スタディモデル] b 作業用模型 c 複製模型 d 耐火模型
	F-3 模型材の種類	<ul style="list-style-type: none"> a α-石膏系 b β-石膏系 c 模型用埋没材
	F-4 模型に対する処置	<ul style="list-style-type: none"> a リリーフ b 後堤法 [ポストダム] c ビーディング d ブロックアウト e ティッシュストップ
	G. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	G-1 咬合床の要件と構造	<ul style="list-style-type: none"> a 要件 b 基礎床 c 咬合堤 d 支台 [維持] 装置 e 連結子 [装置]
	G-2 咬合床の製作	<ul style="list-style-type: none"> a 外形線記入 b 基礎床の製作 c 支台 [維持] 装置および連結子 [装置] の組み込み d 咬合堤製作
	G-3 顎間関係の診察	<ul style="list-style-type: none"> a 咬合平面 b 垂直的顎間関係 (咬合高径) c 水平的顎間関係
	G-4 対向関係による咬合採得の種類	<ul style="list-style-type: none"> a 残存歯咬合のある中間欠損 b 残存歯咬合のある遊離端欠損 c 残存歯の咬合のないもの

大項目	中項目	小項目
	G-5 咬合床の口腔内調整	a 基礎床 b 支台〔維持〕装置, 連結子〔装置〕 c 咬合堤
	G-6 頭蓋に対する上顎の位置決定	a フェイスボウトランスファー
	G-7 顎間関係の記録	a 中心咬合位の記録 b 中心位の記録 c 偏心位の記録
	H. 咬合器装着	a 咬合器の種類 b 作業用模型の装着 c 咬合器の調節
	I. 支台〔維持〕装置の製作	
	I-1 铸造鉤	a 設計線の記入 b 作業用模型の修正 c 作業用模型の複製 d ワックスパターンの製作 e 埋没 f 铸造, 研磨
	I-2 線鉤	a 設計線の記入 b アームの製作 c レストの製作 d レストの鑲着
	J. 大連結子〔装置〕の製作	
	J-1 屈曲法	a 外形線の記入 b リリーフ c 屈曲 d 脚部の製作（保持形態）
	J-2 铸造法	a 型ごと埋没法 b ワックス圧接法
	K. フレームワークの製作	
	K-1 作業用模型の修正	
	K-2 複（製）印象	
	K-3 型の製作	a 支台〔維持〕装置 b 連結子〔装置〕

大項目	中項目	小項目
	K-4 埋没	a 耐火模型のトリミング b 模型基底部の調整 c スプルー線の植立
	K-5 鋳造	
	L. 人工歯の排列	
	L-1 人工歯選択	a 目的と所要条件 b 人工歯の種類 c 人工歯の選択
	L-2 人工歯排列	a 前歯部の排列 b 臼歯部の排列
	L-3 人工歯削合	a 中心咬合位での削合 b 側方咬合位での削合 [BULL の法則]
	L-4 部分床義歯における特異性	a 残存歯との調和 b 形態修正
	M. 歯肉形成	
	M-1 要点	a 審美性 b 機能性 c 衛生的条件
	M-2 唇側，頬側の形成	a 歯頸線 b 歯間乳頭 [歯間空隙] c 歯冠豊隆 d 残存歯との調和
	M-3 舌側，口蓋側の形成	a S 字状隆起 b 口蓋皺襞 [ヒダ]
	M-4 床縁の形態	a コルベン状形態 b 移行形
	M-5 仕上げ	
	N. ろう義歯の口腔内試適	
	N-1 試適時の診察	a 着脱性 b 支台装置の適合性 c 床の適合性 d 維持および安定性 e 咬合関係 f 審美性

大項目	中項目	小項目
	O. 義歯の埋没・重合・研磨 O-1 クラasp, バーの前処置 O-2 フラスク埋没 O-3 レジン重合 O-4 取り出しと研磨 P. 義歯の口腔内装着 P-1 装着時の検査 P-2 装着時の調整 P-3 装着時の指導 P-4 装着後の検査・評価	g 構音 h 装着感・異物感 a 義歯要素をすべて下部に取る方法 [フランス式埋没法] b 義歯要素をすべて上部に取る方法 [アメリカ式埋没法] c 人工歯を上部に, 他を下部に取る方法 [アメリカ・フランス併用式埋没法] a 流ろう b レジン填入 c 重合 a 着脱性 b 支台装置の適合性 c 床の適合性 d 維持および安定性 e 咬合関係 f 審美性 g 構音 h 装着感・異物感

(Ⅲ) - 3 無歯顎の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目
1. 病因・病態	A. 歯の喪失の原因	

大項目	中項目	小項目
<p>2. 主要症候</p> <p>3. 補綴装置（全部床義歯）の分類</p>	<p>A-1 齲蝕</p> <p>A-2 歯周病</p> <p>A-3 外傷</p> <p>A-4 咬合性外傷</p> <p>B. 顎堤の変化</p> <p>B-1 咬合支持様式の変化</p> <p>B-2 歯槽骨の喪失</p> <p>B-3 顎堤形態の変化</p> <p>B-4 顔貌の変化</p> <p>C. 感覚の変化</p> <p>C-1 歯髄感覚の喪失</p> <p>C-2 歯根膜感覚の喪失</p> <p>C-3 粘膜感覚の変化</p> <p>D. 障害とその病態</p> <p>D-1 形態異常</p> <p>D-2 機能障害</p> <p>D-3 心理的障害</p> <p>D-4 社会的障害</p> <p>D-5 その他</p> <p>E. 無歯顎堤の分類</p> <p>E-1 顎堤弓形態よる分類</p> <p>E-2 顎堤吸収程度による分類</p> <p>A. 自覚症候</p> <p>B. 他覚症候</p> <p>A. 義歯の分類</p> <p>A-1 目的別分類</p>	<p>a 生理的吸収</p> <p>b 病的吸収</p> <p>c 不適合義歯による吸収</p> <p>a 上顎顎堤の変化</p> <p>b 下顎顎堤の変化</p> <p>a 老人様顔貌</p> <p>b 舌の肥大</p> <p>a 咀嚼障害</p> <p>b 嚥下障害</p> <p>c 構音障害</p> <p>d 顎機能障害</p> <p>e 咀嚼筋機能障害</p> <p>a 最終義歯</p>

大項目	中項目	小項目
4. 全部床義歯の構成要素	<p>B. その他の分類</p> <p>A. 人工歯</p> <p> A-1 部位による分類</p> <p> A-2 形態による分類</p> <p> A-3 材質による分類</p> <p>B. 義歯床</p> <p> B-1 所要条件</p> <p> B-2 材質</p> <p> B-3 床各部</p> <p> B-4 金属床義歯</p>	<p>b 暫間義歯</p> <p>c 即時義歯</p> <p>d 治療用義歯</p> <p>e 移行義歯</p> <p>a オーバーデンチャー</p> <p>b 顎義歯・顔面補綴</p> <p>c インプラントオーバーデンチャー</p> <p>a 前歯部人工歯</p> <p>b 臼歯部人工歯</p> <p>a 前歯部</p> <p> a-1 方形</p> <p> a-2 卵円形</p> <p> a-3 尖型</p> <p> a-4 中間型</p> <p>b 臼歯部</p> <p> b-1 解剖学的人工歯</p> <p> b-2 機能的人工歯</p> <p> b-3 非解剖学的人工歯</p> <p>a レジン歯</p> <p>b 硬質レジン歯</p> <p>c 陶歯</p> <p>d 金属歯</p> <p>a レジン床</p> <p>b 金属床</p> <p>a 粘膜面</p> <p>b 研磨面</p> <p>c 床縁</p> <p>d 頬, 口唇, 舌との関係</p> <p>a 意義と役割</p> <p>b 種類</p> <p>c 設計の所要条件</p>

大項目	中項目	小項目
5. 全部床義歯の設計		<ul style="list-style-type: none"> d フィニッシュライン e ビーディング f ティッシュストップ
	C. 機能的要件	
	C-1 支持	<ul style="list-style-type: none"> a 義歯床粘膜面の面積 b 顎堤粘膜の性状
	C-2 維持	<ul style="list-style-type: none"> c 顎堤形態
		<ul style="list-style-type: none"> a 物理的維持 <ul style="list-style-type: none"> a-1 吸着 a-2 接着 a-3 粘着 a-4 咬合関係による維持 a-5 筋圧による維持 b 解剖学的維持 <ul style="list-style-type: none"> b-1 顎堤形態 b-2 顎堤粘膜の性状 b-3 対向関係
	C-3 安定	<ul style="list-style-type: none"> a 顎堤形態 b 人工歯の排列位置 c 対向関係 d 咬合平衡 e 咬合様式 <ul style="list-style-type: none"> e-1 片側性平衡 e-2 両側性平衡
	A. 設計の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> a 義歯の安定と残存組織の保護 b 義歯の安定と力の均等配分 c 咬合様式 d 感覚・構音などの条件 e 審美的条件 f 衛生的条件 g 心理的条件
	B. 設計手順	<ul style="list-style-type: none"> a 義歯床の設計 b 人工歯排列位置の決定

大項目	中項目	小項目
6. 臨床操作・技工操作	A. インフォームドコンセント B. 補綴前処置 B-1 外科的処置 B-2 薬物療法 B-3 補綴的処置 C. 印象採得の準備 C-1 トレー C-2 トレーの種類 C-3 トレーの適合, 調整と製作法 C-4 嘔吐反射に対する処置 D. 印象法の種類 D-1 印象材の組合せ D-2 目的別分類	c 義歯に付与する咬合様式 の選択 a 歯槽骨・顎骨整形術 b 骨鋭縁部・骨隆起除去 c 顎堤形成術・延長術 d 義歯性線維腫摘出術 e フラビーガム（組織）除去 f 小帯切除術 a 義歯性口内炎 b 褥創性潰瘍 c 嘔吐反射 a ティッシュコンディショニング b 既存義歯の修正 （床適合, 咬合調整, 下顎位） c 治療用義歯 a トレーの使用目的と所要条件 a 材料 b 既製トレー c 個人トレー d 印象材の保持方法 a 既製トレーの適合, 調整 b 個人トレーの製作 a 体位・頭位 b 薬物 a 単一印象 b 連合印象 a 概形印象

大項目	中項目	小項目
	D-3 粘膜への圧力別・機能別	b 精密印象 a 加圧印象 b 無圧印象 c 解剖学的印象 d 機能印象 e ダイナミック印象 f 咬合圧印象 g 咬座印象
	D-4 印象材別の分類	a ハイドロコロイド系 b ゴム質 c コンパウンド類 d 酸化亜鉛ユージノール e ワックス系 f レジン系
	E. 印象採得	
	E-1 目的 [方針]	a 顎堤粘膜部の印象 b 筋圧面の機能的調和
	E-2 基底面、床縁と研磨面の表現方法	a 負担圧の均等化 b 筋圧形成
	E-3 前準備	a 前投薬（嘔吐反射） b トレーの選択，適合，修正
	E-4 概形印象	
	E-5 研究用模型製作	
	E-6 研究用模型による診断	a 床外形線 b リリーフ [緩衝] 部位の決定 c 後堤法 [ポストダム]
	E-7 個人トレー製作	a リリーフ [緩衝] b ブロックアウト c スペーサー d ストッパー
	E-8 精密印象	a 辺縁 [筋圧] 形成
	F. 模型	
	F-1 所要条件	a 正確さ [寸法精度]

大項目	中項目	小項目
	F-2 種類	<ul style="list-style-type: none"> b 強度 a 作業用模型 b 研究用模型 [スタディモデル] c 複製模型 d 耐火模型
	F-3 模型材の種類	<ul style="list-style-type: none"> a α-石膏系 b β-石膏系 c 模型用埋没材
	F-4 模型の製作	<ul style="list-style-type: none"> a 作業用模型 b スプリットキャスト c 複製模型
	F-5 模型に対する処置	<ul style="list-style-type: none"> a 床外形線 b 歯槽頂線 c リリーフ [緩衝腔] d 後堤法 [ポストダム] e ブロックアウト f 模型正中線
	G. 顎間関係記録 [咬合採得]の前準備	
	G-1 顎間関係記録 [咬合採得]の目的	
	G-2 咬合床の要件と構造	<ul style="list-style-type: none"> a 要件 b 基礎床 c 咬合堤
	G-3 咬合床の製作	<ul style="list-style-type: none"> a 外形線記入 b 基礎床の製作 c 咬合堤製作 d 咬合平面板 e ゴシックアーチ描記装置
	H. 顎間関係の記録 [咬合採得]	
	H-1 咬合床の口腔内調整	<ul style="list-style-type: none"> a 基礎床の適合検査と調整 b 咬合堤
	H-2 仮想咬合平面の決定	<ul style="list-style-type: none"> a Camper平面 [鼻聴道線]

大項目	中項目	小項目
	H-3 垂直的顎間関係 [咬合高径] の決定	<ul style="list-style-type: none"> b 瞳孔線 c 舌側縁 d 口角 e HIPプレーン a 下顎安静位利用法 b 嚙下運動利用法 c 発音利用法 d 最大咬合力利用法 e 顔面計測法 f 顔面の審美的特徴を利用する方法
	H-4 水平的顎間関係 [中心咬合位] の採得	<ul style="list-style-type: none"> a 習慣性閉口路利用法 b タッピング運動利用法 c ゴシックアーチ描記法 d 触診法（筋・顎関節） e 嚙下運動利用法 f Walkhoff小球利用法 g 頭部後傾法
	H-5 転覆試験	
	H-6 咬合堤形態の付与	<ul style="list-style-type: none"> a アーチの大きさの決定 b 豊隆度 c 顔貌 d 審美性
	H-7 基準線の記入	<ul style="list-style-type: none"> a 正中線 b 口角線 c 上唇線 d 下唇線 e 鼻翼幅線
	H-8 上下顎咬合床の固定	
	I. 咬合器への模型装着	
	I-1 頭蓋に対する上顎位置 の採得	<ul style="list-style-type: none"> a フェイスボウトランスフ ァー b フェイスボウの構造と種 類 c Bonwill三角

大項目	中項目	小項目
	I-2 咬合器	d Balkwill角 e 前方基準点 [鼻翼下点・眼窩下点] f 後方基準点 [顎頭点] a 平均値咬合器 b 半調節性咬合器 c 全調節性咬合器 d アルコン型咬合器 e コンダイラー型咬合器 f 咬合器の選択
	I-3 模型の装着	a フェイスボウトランスファー b 咬合平面板の利用
	J. 下顎運動の記録と咬合器の調節	
	J-1 顎路測定	a 目的 b チェックバイト法 c Christensen現象 d パントグラフ法 e 下顎運動記録装置を用いる方法
	J-2 顎路の調節	
	J-3 切歯路の調節	
	K. デンチャースペースの記録法	a フレンジテクニック b ニュートラルゾーンテクニック c ピエゾグラフィ
	L. 人工歯の選択	
	L-1 人工歯の種類	a 材質 b 形態 c 色調
	L-2 前歯部選択	a SPA 要素 b 顔の形・色 c モールドガイド

大項目	中項目	小項目
	L-3 白歯部選択	d シェードガイド a 顎路傾斜 b 切歯路傾斜 c 咬頭傾斜角 d 顎堤形態 e 歯槽頂間線
	M. 人工歯の排列	
	M-1 基準平面	a 仮想咬合平面
	M-2 前歯部排列	a 基準線 b 歯冠軸の傾斜角度 c 被蓋 d 審美性 e 笑線 f 歯頸線の位置・形態 g 構音
	M-3 白歯部排列	a 排列の原則 b 歯槽頂間線の法則 c ニュートラルゾーン d 調節彎曲 e Poundライン f 両側性平衡咬合 g 片側性平衡咬合 h リンガライズドオクルージョン i Tenchの間隙 j 交叉咬合排列 k 非解剖学的人工歯の排列 l Hanauの咬交の5要素
	N. 歯肉形成	
	N-1 要点	a 審美性 b 機能性 c 衛生的条件
	N-2 唇側，頬側の形成	a 歯頸線 b 歯間乳頭 [歯間空隙] c 歯根豊隆

大項目	中項目	小項目
	N-3 舌側, 口蓋側の形成	d 残存歯との調和 a S字状隆起
	N-4 床縁の形態	b 口蓋ヒダ [口蓋皺壁] a コルベン状 b 移行形
	N-5 仕上げ	
	O. ろう義歯の口腔内試適	
	O-1 審美性の診察	a 顔貌 b 排列・被蓋・色調
	O-2 維持および安定	a 床の適合性 b 床外形 c リリーフ [緩衝腔] d 後堤法 [ポストダム] e 転覆試験
	O-3 咬合	a 咬合位の診察 b 咬合接触 c 咬合高径
	O-4 装着感・異物感	
	O-5 構音	a 構音検査
	P. 義歯の埋没・重合・研磨	
	P-1 歯型採得	a Tenchの歯型
	P-2 ろう義歯の埋没	a フラスク b 埋没材 c 埋没方法
	P-3 流ろう	
	P-4 レジン重合	a 加熱重合法 b 長時間低温重合法 c マイクロウェーブ重合法 d 常温重合法 f 光重合法
	P-5 レジン成形法	a 加圧填入 b 加圧注入 c 流し込み d 射出 e 加圧圧縮

大項目	中項目	小項目
	P-6 取り出し P-7 咬合器再装着 P-8 削合 P-9 研磨 Q. 義歯の口腔内装着 Q-1 装着時の診察 Q-2 装着時の調整 Q-3 装着時の指導 Q-4 装着後の検査・評価	a Trenchの歯型を用いる方法 b フェイスボウを用いる方法 c スプリットキャストを用いる方法 a 中心咬合位での削合 b 側方咬合位での削合 c 自動削合 a 着脱性 b 床の適合性 c 維持および安定性 d 咬合関係 e 審美性 f 構音 g 装着感・異物感 a 義歯の清掃法 b 義歯の管理法

(Ⅲ) - 4 顎顔面欠損の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目
<p>1. 病因・病態</p> <p>2. 主要症候</p> <p>3. 補綴装置の要件</p> <p>4. 補綴装置の設計</p> <p>5. 治療</p> <p>6. 装置の種類</p>	<p>A. 病因</p> <p> A-1 先天性疾患</p> <p> A-2 腫瘍</p> <p> A-3 炎症</p> <p> A-4 外傷</p> <p> A-5 その他</p> <p>B. 欠損の分類</p> <p> B-1 上顎・軟口蓋の欠損</p> <p> B-2 下顎・舌の欠損</p> <p> B-3 顔面欠損</p> <p>A. 自覚症候</p> <p>B. 他覚症候</p> <p>A. 機能回復</p> <p>B. 審美性の回復</p> <p>A. 設計の基本原則</p> <p>A. 補綴前治療</p> <p>B. 外科的再建</p> <p>C. 補綴的修復</p> <p>D. 精神的ケア</p> <p>A. 顎義歯</p>	<p>a 咬合</p> <p>b 咀嚼</p> <p>c 発音</p> <p>a 義歯の安定と残存組織の保護</p> <p>b 義歯の安定と力の均等配分</p> <p>c 咬合様式</p> <p>d 感覚・構音などの条件</p> <p>e 審美的条件</p> <p>f 衛生的条件</p> <p>g 心理的条件</p> <p>h 直接支台装置</p> <p>i 間接支台装置</p> <p>a 栓塞部（充実型，開放型，中空型）</p> <p>b 床部</p>

大項目	中項目	小項目
	B. 顔面エピテーゼ C. 滑面板 D. 鼻咽腔部補綴装置 E. 舌接触補助床 F. 口蓋床 G. インプラント補綴装置 H. その他	c 支台装置 d 連結子 e 人工歯 a スピーチエイド b 軟口蓋挙上装置 c 軟口蓋栓塞子 a 顎骨支持型補綴装置 b 顔面インプラント c 頭蓋インプラント a ステント b 咬合斜面板 c 放射線治療補助装置 d 分割義歯 e 口腔内装置 f オクルーザルランプ

(Ⅲ) - 5 口腔インプラントによる補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目
1. 主要症候	A. 自覚症候	
	B. 他覚症候	
2. 補綴装置	A. 上部構造	
	A-1 術者可撤式スクリュー	
	固定式	
	A-2 患者可撤式	
	A-3 セメント固定式	
	A-4 オーバーデンチャー	
	B. 診断用ワックスアップと補綴診断	
3. 治療	A. インフォームドコンセント	
	B. 前処置	
	C. 一次手術	a 1回法
		b 2回法
		c コンピュータ支援手術
	D. 二次手術	
	E. 印象採得と咬合採得	a オープントレー法
		b クローズドトレー法
		c 光学印象法
	F. 上部構造の製作	a 既製アバットメント
		b カスタムアバットメント
		c アタッチメント
	G. 上部構造の装着	
4. 口腔インプラントの応用	A. 顎顔面インプラント	
	B. 矯正治療のためのインプラント	
	C. その他	

(IV) 顎口腔・頭頸部の疾患・障害の治療

(IV) - 1 顎機能障害

大項目	中項目	小項目
1. 病因	A. 環境因子	a 緊張 b 多忙な日常
	B. 行動因子	a 日常生活 b 咀嚼行動 c ブラキシズム・不良姿勢 d ストレス
	C. 宿主因子	a 咬合 b 関節形態 c 咀嚼筋構成組織 d 疼痛閾値 e 疼痛経験 f パーソナリティ g 睡眠障害
	D. 時間的因子	a 悪化・持続因子への暴露時間
2. 病態	A. 咀嚼筋痛障害	
	B. 顎関節痛障害	
	C. 顎関節円板障害	a 復位性 b 非復位性
	D. 変形性顎関節症	
	E. 関節包・靭帯障害	
	F. その他	
3. 主要症候	A. 顎関節や咀嚼筋などの疼痛	
	B. 関節雑音	
	C. 開口障害ないし顎運動	
	D. 随伴症状	a 異常習癖(パラファンクシ ョン)
4. 検査	A. 基本検査	
	A-1. 筋の触診	a 咬筋 b 側頭筋 c 内側翼突筋 d 外側翼突筋

大項目	中項目	小項目
5. 治療	A-2 顎関節部の触診 A-3 顎関節音の聴診 B. 顎運動の検査 C. 咬合検査 D. 画像検査 E. 機器を用いた検査 F. その他の検査 A. 生活指導, ホームケア B. 理学療法 C. 薬物療法 D. アプライアンス療法 E. 精神心理学的治療 F. 外科的療法	e 顎二腹筋 f 胸鎖乳突筋 a クリッキング b クレピテーション a 開口距離 a パノラマエックス線検査 b 顎関節単純撮影エックス線検査 c CT検査 d MRI検査

(IV) - 2 睡眠時無呼吸症 (候群)

大項目	中項目	小項目
1. 病因	A. 中枢性 B. 閉塞性 B-1 解剖学的要因 B-2 他の要因 C. 睡眠関連低換気/低酸素血症候群	a 肥満 b 歯列と顎骨 c 舌 d 軟口蓋 e 扁桃肥大と鼻内病変 a レム睡眠 b 加齢による変化 c その他

大項目	中項目	小項目
2. 病態	D. 身体疾患	
	E. その他	
3. 検査	A. 呼吸器関連の症状	a いびき b 呼吸の中断・息詰まり
	B. 運動関連の症状	a 睡眠時ブラキシズム b タッピング c チック d 四肢や体幹の運動
	C. 疼痛関連の症状	a 日中の眠気 b 顎の痛み c 頭痛、頭頸部痛
	D. 循環器関連の症状	a 血中 PaCO ₂ の上昇
	E. 合併し易い疾患	a 高血圧 b 脳血管障害 c 不整脈 d 糖尿病
	F. その他	
	A. 質問表	
	B. 各種睡眠検査	a 簡易型睡眠検査 b パルスオキシメトリ c 終夜睡眠ポリグラフ検査：PSG d 睡眠潜時反復検査(MSLT) e 覚醒維持検査(MWT)
	C. 鼻咽腔閉鎖機能検査	a 口腔内所見 b 顔面形態検査 c ファイバースコープ検査 d その他（間接喉頭鏡検査）
	D. 画像検査	
	E. 診断基準	
	4. 治療	A. 減量療法
B. CPAP 療法		
C. 行動療法		a 体位変換療法 b 生活習慣の改善

大項目	中項目	小項目
	D. 外科療法 E. 顎口腔の管理 F. 心理療法 G. 薬物療法 H. 定期検診	c バイオフィードバック a 耳鼻科的療法 b 顎顔面外科療法 a オーラルアプライアンス b 歯科治療 (咬合、矯正)

(IV) - 3 摂食嚥下障害

大項目	中項目	小項目
1. 病因	A. 器質的障害 (静的障害) B. 機能的障害 (動的障害) C. 心理的疾患 D. 薬剤の副作用 E. 口腔領域起因 F. 摂食嚥下障害継発疾患	a 先天異常 b 腫瘍 c 外傷 d 手術後 a 仮性球麻痺 b 球麻痺 c 末梢神経障害 d 筋肉の障害 e 誤嚥性肺炎
2. 病態	A. 時期による障害 A-1 先行期障害 A-2 準備期障害 A-3 口腔期障害 A-4 咽頭期障害 A-5 食道期障害 A-6 複数期障害 B. 疾患による障害	a 口腔乾燥 a 誤嚥性肺炎 a 咀嚼障害 a 腔内残留 a 誤嚥 b 喉頭内侵入 c 不顕性誤嚥 d 咽頭残留

大項目	中項目	小項目	
3. 検査	A. スクリーニングテスト	a 質問票	
		b 反復唾液嚥下テスト (RSST)	
		c 改訂水飲みテスト (MWST)	
		d フードテスト(FT)	
		e 水飲みテスト(WST)	
		f 咳テスト	
		g 頸部聴診	
		h その他の評価法	
		B. 嚥下内視鏡検査	a 検査法、合併症とその対策
			b 正常所見と異常所見
D. 嚥下造影検査	a 検査法、合併症とその対策		
	b 正常所見と異常所見		
	c 嚥下内視鏡検査との比較		
4. 治療	A. 口腔健康管理	a 口腔衛生管理	
		b 口腔機能管理	
		c 口腔ケア	
	B. 間接訓練	a 進め方、手技	
		b 体位、姿勢の調整	
	C. 直接訓練	a 進め方、手技	
		b 食事形態の調整	
	D. 食事介助	a 食事場面の観察	
		b 食事形態の調整	
		c 姿勢、介助法、自助具、食器	
	E. 治療的アプローチ	a 舌接触補助床 (PAP)	
		b 軟口蓋挙上装置 (PLP)	
		c その他の補綴装置	
		d 手術的治療	
		e 薬物療法	
	F. リスク管理	a 誤嚥への対応	
		b 窒息、嘔吐への対応	

大項目	中項目	小項目
	G. 多職種連携	a 他分野との連携 b 在宅・施設入所者への対応 c 地域社会におけるチームアプローチ

(IV) - 4 口腔機能低下症

大項目	中項目	小項目
1. 病因	A. 局所的	a 口腔リテラシーの低下 b 齲蝕、歯周病 c 義歯不適合
	B. 全身的	a 加齢変化 b 認知機能 c 生活環境 d 基礎疾患 e 服用薬剤 f 意識レベル g 低栄養 h 廃用
	C. 既往歴	a 肺炎 b 脳血管障害
2. 病態	A. 口腔内の微生物の増加	
	B. 口腔乾燥	
	C. 咬合力の低下	
	D. 舌や口唇の運動機能の低下	
	E. 舌の筋力の低下	
	F. 咀嚼や嚥下機能の低下	
3. 主要症候	A. 自覚症状	a 食べこぼし b 噛めない食品増加 c むせ d 滑舌低下 e 発音・構音障害 f 誤嚥
	B. 他覚症状	
4. 検査	A. 診断基準	

大項目	中項目	小項目
5. 管理	B. 口腔機能精密検査	
	B-1 口腔衛生状態不良の検査	
	B-2 口腔乾燥の検査	a 口腔粘膜湿潤度 b 唾液量
	B-3 咬合力低下の検査	a 咬合圧検査 b 残存歯数
	B-4 舌口唇運動機能低下の検査	a オーラルディアドコネシス
	B-5 低舌圧の検査	
	B-6 咀嚼機能低下の検査	a 咀嚼能力検査 b 咀嚼能率スコア法
	B-7 嚥下機能低下の検査	a 嚥下スクリーニング検査 (EAT-10) b 自記式質問票 (聖隷式嚥下質問紙)
	A. 管理計画の立案	a 全身状態の把握 b 栄養状態の把握 c 歯科疾患管理 d 低下した口腔機能の管理
	B. 歯科疾患の治療	a う蝕、歯周病 b 補綴歯科治療
	C. 口腔機能訓練および指導	a 口腔衛生指導 b 口腔乾燥に対する指導 c 舌口唇運動訓練 d 抵抗訓練器具による訓練指導 e 咀嚼指導 f 嚥下訓練指導
	D. 全身状態に併せた管理指導	a 適切な動機づけ b 体重管理 c 生活・栄養指導 d 運動指導
	E. 他職種連携	a 他職種への啓蒙 b 情報の共有

(IV) - 5 その他

大項目	中項目	小項目
1. 咬合異常・不正咬合	<p>A. 病因</p> <p>A-1 歯の異常</p> <p>A-2 歯の位置異常</p> <p>A-3 咬合を構成する要素の異常</p> <p>B. 病態</p> <p>B-1 対向関係の異常</p> <p>B-2 咬合位の異常</p> <p>B-3 咬合接触の異常</p> <p>B-4 下顎運動の異常</p> <p>B-5 咬合を構成する要素の異常</p>	<p>a 齶蝕</p> <p>b 歯周疾患</p> <p>c 咬耗</p> <p>d 外傷</p> <p>a 歯科矯正学的要因</p> <p>b 歯の欠損に伴うもの</p> <p>c 加齢変化</p> <p>a 骨</p> <p>b 顎関節</p> <p>c 神経</p> <p>d 筋</p> <p>e 口腔粘膜</p> <p>a 反対咬合</p> <p>b 切端咬合</p> <p>c 交叉咬合</p> <p>d 過蓋咬合</p> <p>e 開咬</p> <p>a 咬合位の偏位</p> <p>b 高位</p> <p>c 低位</p> <p>a 早期接触</p> <p>b 咬頭干涉</p> <p>c 咬合接触の不均衡</p> <p>d 咬合性外傷</p> <p>a 咬合終末位の異常</p> <p>b 咀嚼運動の異常</p> <p>c 外傷性咬合</p> <p>d 関節円板の障害</p> <p>a 歯・骨・顎関節・神経・筋・口腔粘膜</p>

大項目	中項目	小項目
2. 歯の変色・着色	<p>C. 主要症候</p> <p>C-1 歯根膜にみられる変化</p> <p>C-2 顎関節に見られる変化</p> <p>C-3 下顎位・下顎運動に見られる変化</p> <p>C-4 咀嚼・嚥下に見られる変化</p> <p>C-5 中枢神経系にみられる変化</p> <p>C-6 姿勢、首、肩、腰にみられる変化</p> <p>C-7 眼、耳、鼻にみられる変化</p> <p>C-8 その他の愁訴</p> <p>D. 検査</p> <p>D-1 視診</p> <p>D-2 触診</p> <p>D-3 咬合紙による印記</p> <p>D-4 咬合採得材</p> <p>D-5 引き抜き試験</p> <p>D-6 感圧フィルムによる咬合検査法</p> <p>D-7 咬合音</p> <p>D-8 上下顎歯列模型を調節性咬合器に装着して検査する方法</p> <p>D-9 下顎運動検査法</p> <p>E. 治療</p> <p>E-1 インフォームドコンセント</p> <p>E-2 歯列矯正</p> <p>E-3 歯冠修復</p> <p>E-4 咬合調整</p> <p>A. 病因</p>	

大項目	中項目	小項目
	A-1 歯の変色・着色の病因	a 先天性・薬剤性・疾患由来 b 後天性
	A-2 歯冠修復装置・欠損補綴装置の変色・着色の病因	a 材料の変化
	A-3 その他	a 歯肉の色素沈着 b 歯肉退縮
	B. 病態	
	B-1 歯質の変色・着色	
	a 先天性	a 薬剤性 b 疾患由来
	b 後天性	a 外来要因 b 歯髄失活
	B-2 歯冠修復装置・欠損補綴装置の変色・着色	a 歯冠色材料 b 金属 c その他材料
	B-3 その他	a 歯肉着色 b 歯肉形態
	C. 主要症候	
	C-1 歯髄疾患	
	C-2 審美性	
	D. 検査	
	D-1 シェードガイドを用いた視感比色	
	D-2 歯科用色彩計を用いた方法	
	D-3 その他 写真等	
	E. 治療	
	E-1 歯質の変色の治療法	a インフォームドコンセント b 漂白法 c 歯冠修復 d その他

大項目	中項目	小項目
	E-2 歯冠修復物の変色	a インフォームドコンセント b 歯冠修復
	E-3 その他	a 歯科用レーザーを用いる方法 b 歯周外科的方法

(V) 高齢者に関連した障害・疾患の治療

大項目	中項目	小項目
1. 歯科治療で注意すべき疾患の病因・病態	A. 運動障害	a 脳血管疾患
		b 関節疾患
		c 骨折
		d 廃用性症候群
		e 神経・筋疾患、Parkinson病
	B. 認知障害	a 認知症
	C. 口腔機能低下症	
	D. 摂食嚥下障害	a 摂食行為・食物認知障害
		b 咀嚼障害
		c 嚥下障害
E. 誤嚥性肺炎	a 呼吸器疾患	
	b 胃食道逆流症	
F. フレイル	a サルコペニア	
2. 老化による口腔・顎顔面領域の変化	A. 機能的変化	a 咀嚼機能
		b 摂食嚥下機能
		c 発音・構音機能
		d 感覚機能
		e 反射機能
	B. 形態的変化	a 歯，歯列
		b 歯槽骨，顎骨
		c 口腔粘膜，舌，唾液腺（口腔乾燥）
		d 顎関節，筋
3. 高齢者に関連した臨床	A. 全身状態の評価	a 身体状態

大項目	中項目	小項目
評価	B. 口腔機能の評価	<ul style="list-style-type: none"> a-1 日常生活動作<ADL> a-2 手段的日常生活動作<IADL> a-3 Barthel Index <BI> a-4 Functional Independence Measure <FIM> b 認知機能 <ul style="list-style-type: none"> b-1 改定長谷川式簡易知能評価スケール<HDS-R> b-2 Mini-Mental State Examination <MMSE> b-3 Functional Assessment Staging <FAST> c 心理 d 行動 e 栄養 f 服用薬物 a 口腔機能低下症の検査 <ul style="list-style-type: none"> a-1 口腔不潔 a-2 口腔乾燥 a-3 咬合力検査 a-4 舌圧検査 a-5 咀嚼機能検査 a-6 舌口唇運動機能検査 a-7 嚥下機能検査 b 摂食嚥下機能 <ul style="list-style-type: none"> b-1 VF b-2 VE b-3 頸部聴診法 b-4 咳テスト b-5 咀嚼機能検査

大項目	中項目	小項目
4. 治療	<p>A. 予防と管理</p> <p>B. 歯および歯周疾患への対応</p> <p>C. 歯の欠損への対応</p> <p>D. 摂食嚥下障害への対応</p> <p>E. 訪問歯科診療</p> <p>F. 多職種協働</p>	<p>b-6 舌圧検査</p> <p>b-7 オーラルディアドコ キネシス</p> <p>b-8 ブローイング時間</p> <p>b-9 反復唾液嚥下テスト <RSST></p> <p>b-10 改訂水飲みテスト <MWST></p> <p>b-11 フードテスト</p> <p>c 発声・構音機能</p> <p>d 唾液量</p> <p>e 筋</p> <p>a 歯の喪失予防（口腔保健 指導）</p> <p>b フレイル予防（口腔衛生 管理,口腔機能管理, 栄養 管理）</p> <p>a 治療的アプローチ（間接 訓練, 直接訓練）</p> <p>b 代償的アプローチ</p> <p>c 環境改善的アプローチ</p> <p>d 心理的アプローチ</p> <p>e 栄養療法</p> <p>a 訪問歯科診療器材</p> <p>b 保健指導</p>

(VI) 補綴歯科治療後の管理

大項目	中項目	小項目
1. 歯周組織	A. 歯周組織の変化	
	B. 歯肉炎, 歯周炎への対応	
	C. 負担過重の影響	
2. 歯	A. 残存歯	a 齲蝕
		b 咬耗
		c 支台歯の動揺
		d 残存歯の疼痛
	B. 残存歯列	a 咬合関係
		b 咬合接触状態
3. 顎堤	A. 顎堤の変化	a 吸収
		b 病的変化
		c 顎堤粘膜の疼痛
		d 灼熱感
		e 乾燥感
	B. 義歯床下粘膜	a 義歯性潰瘍
		b フラビーガムの形成
		c 義歯性線維腫の形成
		d 義歯性口内炎
		e アレルギー反応
		f 灼熱感
		g 乾燥感
4. 顎関節・筋	A. 顎関節・筋の異常	
5. 補綴装置	A. 脱離	a 固定性歯冠補綴装置の脱離
	B. 外観変化および破損	a 固定性歯冠補綴装置の破損
	C. 咬合の変化	a 咬耗
		b 摩耗
		c 咬傷
	D. 義歯の破損	
	E. 義歯の不適合	a 適合試験
		b リライン
		c リベース

大項目	中項目	小項目
6. 機能	A. 口腔機能検査	a 下顎運動 b 咬合 c 咀嚼・嚥下・構音 d 口腔内感覚
7. 患者指導	A. ホームケアとブラークコントロール	
8. リコール	A. 顎顔面の変化と異常・その対応 B. 顎顔面と全身との関連・その対応	
9. 他科との連携		